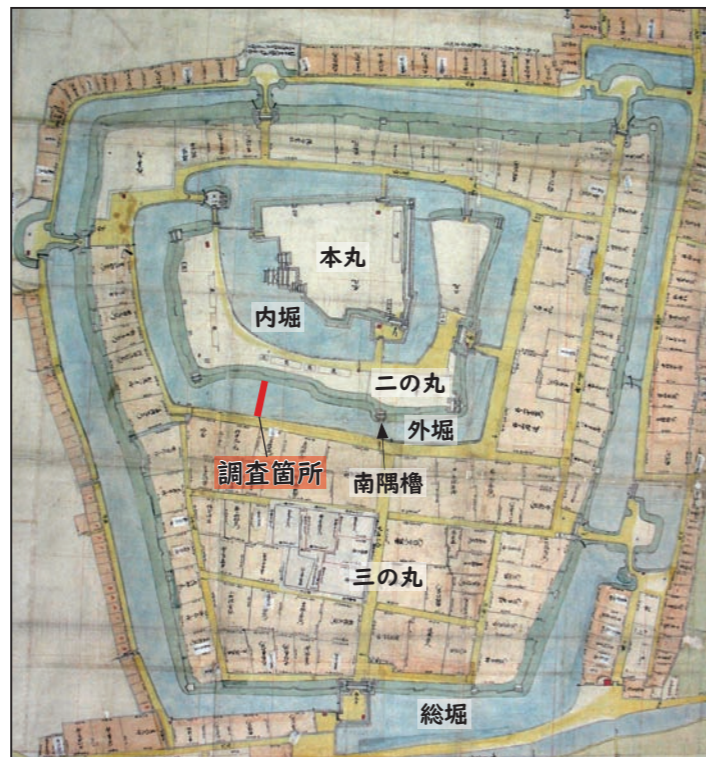


# 史跡松本城 外堀跡南外堀第5次調査 中間成果報告

松本市教育委員会

## 1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在  
松本市大手3丁目3-8 4他
- (2) 調査の目的  
史跡松本城 南・西外堀整備事業に伴う南外堀跡の確認調査
- (3) 調査期間  
令和4年(2022)6月～  
令和5年(2023)3月(予定)
- (4) 調査区  
幅約8.8m×長さ約40m



「享保十三年秋改松本城下絵図」(部分・一部改)

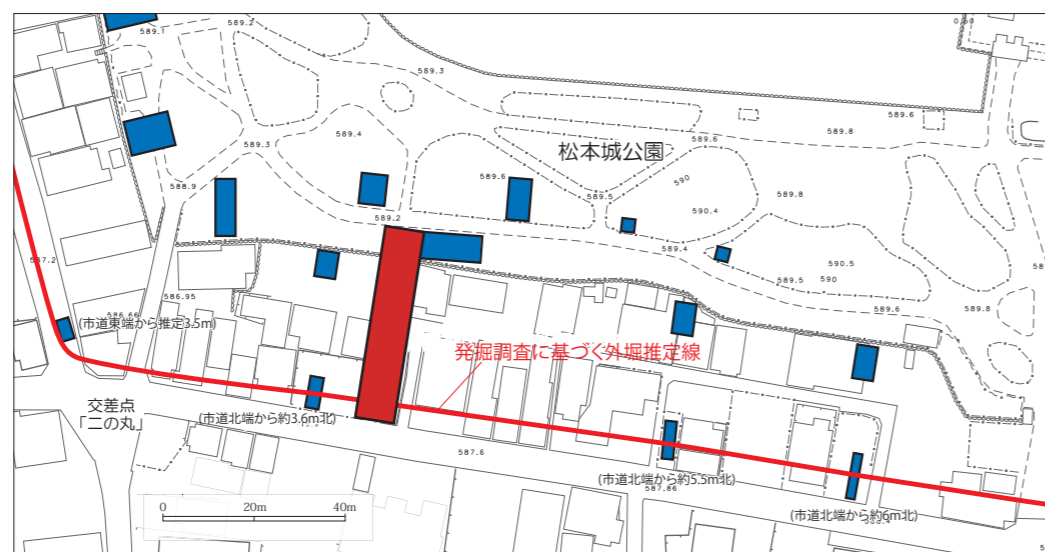
## 2 南外堀について

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それらを囲む3重の堀(内堀・外堀・総堀)で構成される城郭部分、その外側に位置する城下町で成り立っています。外堀の明確な成立時期は不明ですが、おそらく築城期と一緒に整備されたものと考えられます。古文書等から江戸時代をとおして何度も浚渫(泥さらい)が行われたことがわかっています。そして、明治維新と廃藩置県後、松本城の政庁・軍事的拠点としての役目を終える中で、外堀の一部(南側・西側)が大正8年から昭和初年にかけて埋め立てられ、宅地化しました。

現在、埋め立てられた外堀の整備に取り組んでいます。

これまでの発掘調査において、三の丸側の外堀の境界や二の丸公園内で土塁の盛土を確認をしています。

今回の調査は、南外堀の南北範囲と深度を確認するためのものです。



今回の調査地(赤い箇所)とこれまでの調査地(青い箇所)

## 3 発掘調査の成果について

### (1) 杭列の出土

今回の調査では、過去の調査で確認された二の丸土塁裾部に設置されている杭列を確認することはできませんでした。令和3年度の調査では、南外堀東の2カ所の調査区から杭列が出土しており、今回の調査区でも同様の杭列が出土するものと想定していました。

今回の調査でも土塁裾部から杭が出土していますが、令和3年度の杭列と比べ密度が薄く、本数も少ないです。杭の形状は過去のものに類似していますので、松本城二の丸の改修などの際に取り壊された杭列の一部である可能性が考えられます。

また、土塁底部と推定される場所から、東西方向に横たわる丸太が出土しました。出土した丸太は半裁され直角に交わる杭が確認できることから、土塁基礎部の土木工事の痕跡である可能性が考えられます。



令和4年度調査で出土した杭の様子



令和3年度調査で出土した杭列

### (2) 石垣の出土

外堀の南側である三の丸側との境界から石垣が出土しました。過去の発掘調査で確認されている石垣の一部であると思われます。石垣は現在の地表から50cm程度下で出土しており、石垣の直上には近代の埋め立て土が広がっていました。

石垣から堀の内側にかけて、大小様々な石が出土しましたが、外堀を埋め立てる際に石垣の上部を壊し堀の中に投げ入れたものであると思われます。



出土した石垣(北東から)

### (3) 外堀の断層

南外堀の堀底の下から複数の断層が確認されました。縦方向の断層に加え水平方向の断層も確認されており、大きな地震によって引き起こされた断層であると考えられます。

この断層を伴う地震がいつの時代に発生したのか分かっておらず、今後の調査研究が必要となります。



斜めにずれている断層